

## マントヒヒとの混合展示下におけるバーバリーシープの繁殖

○鈴木大河，松元悠一郎  
(鹿児島市平川動物公園)

鹿児島市平川動物公園では、マントヒヒ 65 頭（雄 32 頭，雌 30 頭，不明 3 頭）とバーバリーシープ 7 頭（雄 3 頭，雌 4 頭）をサル山式展示場（452 m<sup>2</sup>）にて混合展示を行っている。日中は展示場内にて同居，夜間は各寝室（W3×D3×H2.6m）に収容して管理している。2014 年～2018 年に 5 頭のバーバリーシープの繁殖（雄 3 頭，雌 2 頭）があり，子の群れへの導入を 3 回行い記録することができた。母親は出産約 26 日前より腹部の膨大が顕著になったことから，終日寝室にて管理を行った。出生後，子の体重測定（3～5 回/週）を実施した。出生時の平均体重（±標準偏差）は 2.38±0.47 kg（n=5）となり約 1 時間で起立し授乳を確認できた。1 週齢では 3.25±1.19 kg（n=4）となり動き回る様子を確認できた。3 週齢では 5.13±0.80 kg（n=2）となり乾草や青草等の採食もみられ，角が生え始めた。約 7 週齢では 9.4±1.69 kg（n=2）となり屋外放飼場へ放飼した。この際，同種他個体との同居を実施し，翌日にマントヒヒとの同居を試みた。マントヒヒの追尾により疲労する懸念があったため，注意分散を目的に採食に時間を費やす小麦やヤシの葉等を給餌し，数頭ずつ放飼する方法を実施した。結果，執拗な追尾は見られず，大きな問題なく同居させることができた。約 3 ヶ月齢では 11.00±2.26 kg（n=2）となりマントヒヒとの同居に慣れてはいるが親と共に行動していた。約 1 年後には 32 kg（n=1）に達した。生後 8 週までの 1 週間毎の増体率は最大 50%（生後 1 週），最小 3.7%（生後 8 週），平均 17.2±12.4%となった。増体率の内訳としては，6 週齢まで減少し，7 週齢で一時的に増加し，その後 8 週齢で再び減少が見られた。混合展示下での育成に成功した要因としては，バーバリーシープを出産前後で隔離させたこと，およびマントヒヒとの同居時に子に執着させないためのエンリッチメントを取り入れたことが考えられた。